



S.Naka

THE SPORTS NIPPON SHO
KYOTO KIMPAI

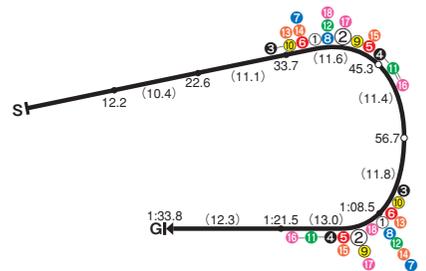
第62回 スポーツニッポン賞 京都金杯 (GIII)

1着 賞 43,000,000円 2着 17,000,000円 3着 11,000,000円 4着 6,500,000円 5着 4,300,000円
付加賞 679,000円 194,000円 97,000円



レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

4歳以上、2023.1.5以降2023.12.28まで1回以上出走馬、除未出走馬および未勝利馬
負担重量 ハンデキャップ



通過タイム : 600m 800m 1000m 上り : 800m 600m
33.7 - 45.3 - 56.7 48.5 - 37.1

2024.1.6 京都 晴・良 芝1600m (国際) (特指)

順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (管差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	②	コレベティートル	牡 4	54	岩田康誠	1:33.8	7-6	35.3	480(-2)	16.5⑧	中竹和也(栗東)	108
2	⑩	セツション	牡 4	55	坂井瑠星	1/2	2-2	36.4	514(-6)	6.2③	斉藤崇史(栗東)	109
3	④	トゥードジボン	牡 5	55	藤岡佑介	アタマ	3-3	35.9	488(+2)	5.4①	四位洋文(栗東)	107
4	⑧	アヴェラーレ	牝 6	56	A.ルメートル	1/4	9-9	35.6	448(+2)	10.5⑤	木村哲也(美浦)	106
5	⑦	フリームファクシ	牡 4	56	川田将雅	3/4	7-6	35.8	512(+4)	8.9⑥	須貝尚介(栗東)	
6	①	メイショウシンタケ	牡 6	57	浜中 俊	3/4	12-10	35.7	478(+10)	11.5⑦	千田輝彦(栗東)	
7	⑦	タイムトゥヘヴン	牡 6	57	幸 英明	3/4	13-10	35.7	490(+2)	56.2⑩	戸田博文(美浦)	
8	⑤	ダノンタッチタウン	牡 4	56	北村友一	1/2	4-4	36.4	546(±0)	18.5⑨	安田隆行(栗東)	
9	③	ルブリュフォー	騾 8	57	秋山真一郎	1/4	18-18	35.5	502(±0)	134.4⑦	松永幹夫(栗東)	
10	⑩	アンドヴァラナウト	牝 6	55.5	武 豊	クビ	16-17	35.7	464(+12)	18.0③	池添 学(栗東)	
11	⑭	アルナシーム	牡 5	57	鮫島克駿	アタマ	13-10	36.0	446(+6)	5.8②	橋口慎介(栗東)	
12	⑩	サヴァ	牡 6	56	松若風馬	クビ	9-10	36.2	540(+10)	163.0⑩	上村洋行(栗東)	
13	⑨	セルバーグ	牡 5	57	松山弘平	1/2	6-6	36.7	440(+4)	20.6⑨	鈴木孝志(栗東)	
14	⑩	ドープネ	牡 5	58.5	吉田準人	3/4	4-4	37.0	482(+10)	7.4④	武幸四郎(栗東)	
15	⑫	ビューティフルディ	牡 6	55	西村淳也	3/4	9-10	36.5	450(-4)	81.9⑧	国枝 栄(美浦)	
16	⑩	マテロウオリオン	牡 5	58	太宰啓介	1/4	16-15	36.3	488(+8)	31.1⑥	昆 貞(栗東)	
17	⑩	シャイニーロック	牡 8	57	酒井 学	クビ	13-15	36.6	510(+2)	118.0⑫	佐々木晶三(栗東)	
18	⑩	ドルチェモア	牡 4	56	団野大成	1/4	1-1	39.0	474(-2)	125.9⑭	上原佑紀(美浦)	

単勝②1,650円(8.4倍) 複勝②410円(8.4倍) ⑩220円(2.4倍) ④210円(1.4倍) 枠連①-⑥2,310円(12.4倍)
馬連②-⑩4,720円(20.4倍) ワイド②-⑩1,540円(17.4倍) ②-④1,200円(12.4倍) ④-⑩720円(1.4倍)
馬単②-⑩8,870円(43.4倍) 3連複②-④-⑩7,910円(17.4倍) 3連単②-⑩-④54,810円(153.4倍)

アラカルト

- ・岩田康誠騎手はケイデンスコールで制した21年に続く京都金杯4勝目。JRA重賞は通算110勝目
- ・中竹和也調教師は京都金杯初勝利。JRA重賞は通算26勝目
- ・ジャスタウェイ産駒はJRA重賞通算8勝目
- ・4歳馬の勝利は19年バクスアメリカーナに続く通算28回目
- ・非抽選馬 5頭(アナゴサン、グラティアス、コンパステオン、ダノンティンパニー、リュベック)

コレペティートル Corepétiteur

牡 栗毛 2020.2.15生
 北海道千歳市 社台ファーム生産
 馬主・加藤誠氏 栗東・中竹和也厩舎
 馬名意味・歌劇場などで音楽稽古をつけるコーチ

ベガスナイトUSA系 F17-b

ジャスタウェイ 鹿毛 2009	ハーツクライ 鹿毛 2001	サンデーサイレンスUSA アイリッシュダンス
	シビル 鹿毛 1999	Wild Again シャロンUSA
ベガスナイトUSA Vegas Night 栗毛 2000	Coronado's Quest 栗毛 1995	Forty Niner
		Laughing Look
	Words of War 鹿毛 1989	Lord At War
		Right Word

5代までのインブリード：Shenanigans S5 X M5

INTERVIEW

東礼治郎場長(社台ファーム)

騎手の皆さんにもお礼を言いたいです

2021年セレクトセールで中竹調教師と加藤オーナーにご落札いただきました。育成期はやや気味がやはり気味になるほど前に出ていく意欲がありました。本馬の成長曲線と、中竹厩舎の実戦に使いながら強くしていくプランがうまく噛み合っただけの重賞勝利です。ここ2戦は岩田康誠騎手によるものですが、これまで乗って育ててくれた騎手の皆さんにもお礼を言いたいです。

H.Yamanaka



馬場の内側から追い込み、セッショントワードジボンの間を割るうとした岩田騎手だが、十分なスペースがないと見るや、すかさず内ラチ沿いに進路を変更。鋭い決め手を繰り出したコレペティートルが、2着は確保したセッションを内から差し切った。

共同通信杯7着、ラジオNIKKEI賞5着と、同期生相手の重賞では善戦にとどまった昨年の本馬だが、夏から秋にかけて地力を強化し、暮れの3勝クラス特別を好時計で快勝。昇級初戦の重賞でも前走と同様のイン強襲を決め、初のタイトルを手にした。遅咲きの素質を開花させ、上昇気流に乗ったジャスタウェイ産駒。混戦ムードが漂うマイル界に楽しみな新星が現れた。

父ジャスタウェイ

北海道浦町(有)社台コーポレーション白老ファーム生産 中央、首、仏22戦6勝(天皇賞(秋)^{G1}、ドバイデューティフリー・首^{G1}、安田記念^{G1}、中山記念^{G2}、アーリントンC^{G3}、ジャパン^{G1}2着)、最優秀4歳以上牡馬、15年から供用(代表産駒)ダノンザキッド(ホープフルS^{G1}、東京スポーツ杯2歳S^{G3})、テオレマ(JBCレディスクラシック^{Jr}Ⅰ、TCK女王盃^{Jr}Ⅲ、マリーンC^{Jr}Ⅲ)、ガストリック(東京スポーツ杯2歳S^{G3})、エーボス(フィリーズレビュー^{G3})、マスターフェンサー(名古屋グランプリ^{Jr}Ⅱ、マーキュリーC^{Jr}Ⅲ2回、白山大賞典^{Jr}Ⅲ)、ヴェルテックス(名古屋グランプリ^{Jr}Ⅱ)、アドマイヤジャスタ(函館記念^{G3})、アウィルアウェイ(シルクロードS^{G3})、ロードマイウェイ(チャレンジC^{G3})、コレペティートル(本馬)、ヴェロックス(若葉S・L、若駒S・L、皐月賞^{G1}2着、日本ダービー^{G1}3着、菊花賞^{G1}3着)、アルーリングウェイ(エルフィンS・L)、ボッドボレット(すみれS・L)、ルーージュエヴァイコ(エリザベス女王杯^{G1}2着)

母ベガスナイトUSA

中央19戦3勝(立待岬特別)、地方1戦0勝、01年輸入
 キヤニオンビュー(07 牝父ネオユニヴァース)中央8戦0勝、地方1戦0勝
 ライプインベガス(08 牝父マンハッタンカフェ)中央10戦1勝
 ユッカマウンテン(09 牝父アグネスタキオン)中央26戦2勝(柔折特別)
 オメガインベガス(10 牝父スペシャルウィーク)中央5戦2勝、地方3戦1勝(報知グランプリC、関東オークス^{Jr}Ⅱ2着)
 カジノプレイヤー(12 牝父ダイワメジャー)中央15戦1勝、地方3戦1勝
 アメリカズカップ(14 牝父マンハッタンカフェ)中央39戦4勝(きさらぎ賞^{G3}、カシオペアS^{Op}、野路菊S^{Op})、障害3戦0勝
 フォーチュンカムズ(15 牝父ネオユニヴァース)中央5戦0勝、地方31戦7勝
 キングオブドラゴン(17 牝父ハーツクライ)中央33戦4勝(湾岸S、フォーチュンC、日経新春杯^{G2}2着)
 ミスハイローラー(18 牝父ヴィクトワールピサ)中央6戦0勝、地方20戦5勝
コレペティートル 本馬(20 牝父ジャスタウェイ)中央10戦5勝(京都金杯^{G3}、元町S、摩周湖特別、こうやまき賞)獲得総賞金104,331,000円
 レディーヴァリユー(21 牝父ジャスタウェイ)中央2戦0勝(22 牝父ストロングリターン)
 (23 牝父サトノインプレッサ)
 ※11、13、19(不受胎)、16(生後直死)

鮮やかなイン強襲を決め重賞初制覇

今年の中央競馬は年頭の3連休にあわせ開催日程が組まれ、例年より1日遅い6日に開幕。過去3年間、中央へ移設された京都金杯は、4年ぶりに本来の京都競馬場を舞台に争われた。傑出した存在が見当たらず人気は拮抗したなか、2、3勝クラス特別を連勝中のトワードジボン、前走のカシオベアSでオープン初勝利を挙げたアルナシームと、ドウェユース世代の5歳馬が5倍台のオッズで、2番人気に支持されたものの、結果的には4歳馬が1、2着を独占。鮮やかなイン強襲を決めたコレペティートルが、3番人気のセッションを2着に從えて重賞ウイナーの仲間入りを果たした。

近走は不振が続く2年前の2歳マイル王ドルチェモアが逃げの手に活路を求め、思い切りよくレースを先導。互角のダツシユで飛び出したセッションは離れた2番手に腰を落ち着け、直後にトワードジボンが続く。コレペティートルの岩田康誠騎手は前進氣勢を露にする馬をなだめながら中団のインを追走。アルナシームは馬群の後方で末脚を温存した。

スプリント戦並みのラップを刻み、後続を5馬身ほど離して4コーナーを回ったドルチェモアは直線に向くと急激に失速。残り200m地点で先頭に立ったセッショントワードジボン、そしてコレペティートルが襲い掛かる。